



門 7邊6
番 1525
巻 5止

入志

海鏡

伊勢

第 三十一巻
毎 巻



同善花街 義義立

大雷の海に雲はすらく。雲はたきけし。
朝の光を佛頂の誓のあまの。去
後止花の顔は海向に烟と起し。
咽すド仏真が熱飲と薄如し。底
已わらる此 鏡法は。机乃香を煙し。
一息はあま。こしは坊に松の息笛
流るる芳原情土に真境

物説の町寧ろある。是れはたれか大徳
せしむる事。何れもや辱る落れ粟むく
や子息。海と申しそくくが時を
乃所傳事。そが河内河は是きり
しと。家々ぐ西存と云ふ。えん。支色道
好れく。飛妓か。河。懐の室。此津ハ。の
草創あり。後大磯。は。旅。蒐。りり。
假松坂。は。少。於。あり。あ。京。の。中。に。は。

は。は。神。崎。あり。そ。き。ら。り。河。りり
あり。河。於。は。河。系。浪。美。は。新。町。南
都。の。本。道。依。是。乃。湮。木。其。化。西。肥
此。磨。山。北。越。の。抄。好。別。の。端。勢。初
是。阿。美。治。り。り。白。人。灘。子。呼
出。山。捕。比。丘。人。飯。堂。跡。作。を。りり
や。つ。く。我。道。法。門。の。樂。者。あり。の。此
祇。園。宮。河。乃。此。塔。東。都。堀。町。

のくはの諸子百毒 風流れ元也
云ひべし。かつくハ起婚。疾鷹。船饅
一尊。一瓢の樂。ことり。ことり。はか
う。ゆぐ。れ。色。あ。る。中。よ。我。芳。至。と。も。そ
冠頭。く。ん。教。員。氏。あ。り。く。う。う。と。あ。れ。ど
の。く。く。盛。ん。あ。る。ハ。は。は。し。理。屈。め。の。ち
堅。親。父。ゆ。ハ。和。く。ま。の。護。府。と。行。り
芳。志。や。も。れ。び。く。り。り。子。よ。ハ。禁。教。の

妙。業。と。呼。ぶ。釋。と。釋。と。と。釋。と。と。釋。と。と。
好。と。醜。と。と。魚。と。と。大。量。と。と。此。
房。門。の。ま。は。僧。俗。貴。賤。の。魚。と。と。あ。く。
妙。及。よ。入。つ。て。妙。よ。と。と。宗。系。の。此。芳。系。
絶。に。執。る。と。と。か。の。色。及。金。銀。
折。る。と。と。生。と。と。沙。坊。と。と。夜。苦。と。と。天。
ゆ。て。終。る。と。と。く。と。と。罪。障。と。と。の
の。あ。く。と。と。終。る。と。と。終。る。と。と。續。編。と。と。

くろいせ

くろいせ

二



又倦む。やのよ飽む。こころよらしくしりし
とり〜あ。吾よすむ辱らる。辱し
世もれハ知るこころせぬ。おびこしき
しるぶ〜かろ親切ある志の人もつ
り。汝がこころ放埒の儀とほし。操戯乃
汝と專に〜固く執く〜つ〜さ
ものよ。声とわ〜して筆ハ畢竟倦
しり〜や〜や〜拵あり。拵〜り〜

け方の儀の。永ハ去れ日。維ハはく〜と
とす〜紙
止る志ば〜〜彼とむ〜人。志ぬ〜ま
威儀と正〜。史戯言ハ席〜格
かたハ正情紙〜〜こ〜と〜我
な然の志〜。邪〜く〜心〜ま
らん拵色とこ〜のむれ。愚者事〜人
り〜〜。拵あり。事〜と〜紙〜知。

其後佛法傳り。いしく是と辨むまも。
石塔者之と。常の志をくわく。汝が稱
する所の下の後。新名をいふまもく
下傳の通。農丈高。此子牙をばし。
舟造るも。海に耳め入。やましく。親切
の教則を。彼田を。りる。芝井。相云の
云傳も。性より。今子。向
も。改す。す。後。編。は。は。れ。は。は。く。る。や。ま。も。

若見や。道し。無氣の。末子も。無氣の。末
か。わ。し。く。ま。う。く。海。之。も。ま。れ。は。の。ま。も。
す。は。し。あ。ま。ぐ。引。れ。こ。後。も。先。法。供。の。ま。も。
の。茶。之。も。茶。茶。塔。水。色。と。下。れ。風。俗
も。止。ま。れ。た。子。を。り。其。介。の。解。欠
了。れ。軍。帳。の。先。を。わ。し。り。ひ。
仲。ら。う。た。た。ハ。茶。屋。傳。り。て。あ。る。合。と。つ。ま
は。お。候。若。後。所。を。り。六。世。傳。た。く。

だんくさむらうに松をぬかす。まふ子たがごと
く改宗此をまもるうと。之團の神業の
は。名利貪欲の族を滅し其の屍を
小寺の住持不化小僧未だり臨り
をゆへ。客をよめぬ者のおとす。僧徒は
憐れ無りし。瘞守れぬと。まふと
まふく。いふくの放得縁を法所ま
守りおひく。好色の業僧おひくし。

昔ハ金箱の源一者今ハ出雲の
あぢきま。客をよめぬ者れまふく。小僧
まふ。ゆへに。客をよめぬ。まふく。まふ
客をよめぬ。色をよめぬ。まふく。まふ
如法の僧徒と。愚癡偏見と。悪口
烈き。まふ。客をよめぬ。善悪不二。邪正一如。心外
野鉄炮。まふ。客をよめぬ。まふ。まふ
まふ。神く。別て。呵ら。まふ。まふ。まふ

妙子ども。母をけりてあまうし死体さく
いづらひめくはのり。律くれは慈悲めく
高き四射のやうりう者さく。天物は折き
うる沙汰もあまれば。虚妄不実とらうゆく。
何の神もらまれば。佛あまうしゆに。平を免
律仏とまきしする氣とくさる。觀摩和
高れ是は快め。口ごえこれとせしと見
らや。高層金が唐教員にのりく。文章れ下

あーらへは卯まんげくの川もさる。龍遊
仲らうの入まき。人抱さけて心ぬ及理。佛
遊所業の陽者の人つらひ。仕名医老花業
取のかり子あまじ。すく己が病も中つ。能
あふ事さく知りあまうし。改る小輝る人。情
百善行あつてれしゆ。たいうんもすけ
やうハド。元か所族十が九つ九分まで色の
道もあけらる。あまじ。喜色といひて花術

柳巷よこころふちし。香樹柳巷は清く
 すんばれのづゝあなよるひや。ふせらる
 ちかひくまわしんも。彼醫門のよる熱
 因熱用寒因寒用。くや熱茶熱茶と
 ト。熱茶をの病と治するのあひ付。あつ
 く世人はくみく好色を貴するといふ
 卯は鄭衛の二風と云ふ。同じ佛經
 の正義とす。世智才一の無後人

めもろ先生虚戲。粹。執。遊。は。り。ま。で。笑
 見。る。も。の。自。ら。入。あ。は。れ。を。い
 う。めんと欲まがたなり。りくは羅とせめさ
 ゆはここの徳わり。凡人叱らる時己魚
 と。あはくはひのうと後立。ふ。ま。は。つ。け
 ど。あは叱らる。因。熱。の。ま。は。る。魚。も。ふ
 用。也。あ。は。同。く。色。を。貴。に。り。や。り。他。人。乃
 何。も。は。見。之。己。が。り。も。不。知。ま。は。た。ふ。

柳巷の事

下



亦^あも^らし^く過^{あや}を^か改^める^もの^も多^おう^くん^ん
 う^らぶ^くと^と麻^あ比^あを^わら^り。入^い相^あの^う後^ごら^ら
 自^ま随^ま門^かと^しり^るく^くり^く。喜^{この}笑^{わら}
 あり^く次^{つぎ}と^と

小傳馬町三丁目

上総屋利兵衛板

花街後義守五巻

繪本兩巻林 <small>英一蜂</small>	全三冊	敵討北人實録	五冊
大橋改厝北	全一冊	當世花街後議	五冊
玉室今川	全一冊	絶道微言	五冊
温泉名務志	全一冊	怪談國土産	五冊
古林揃	全一冊	路傍傳	三冊
小本百人一首	全一冊	円迄言捲君傳	三冊
高貴性来	全一冊	竹母諸國物語	四冊
新遍塵劫記	全一冊	上総屋利兵衛	
		江戸小傳馬町三丁目	

